特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

２０１８年度　活動報告書

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-21-12-103
電話：03-4291-2312　　E-mail : info@janpplus.jp
WEB : http://www.janpplus.jp

活動目的とミッション

JaNP+の活動目的

HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

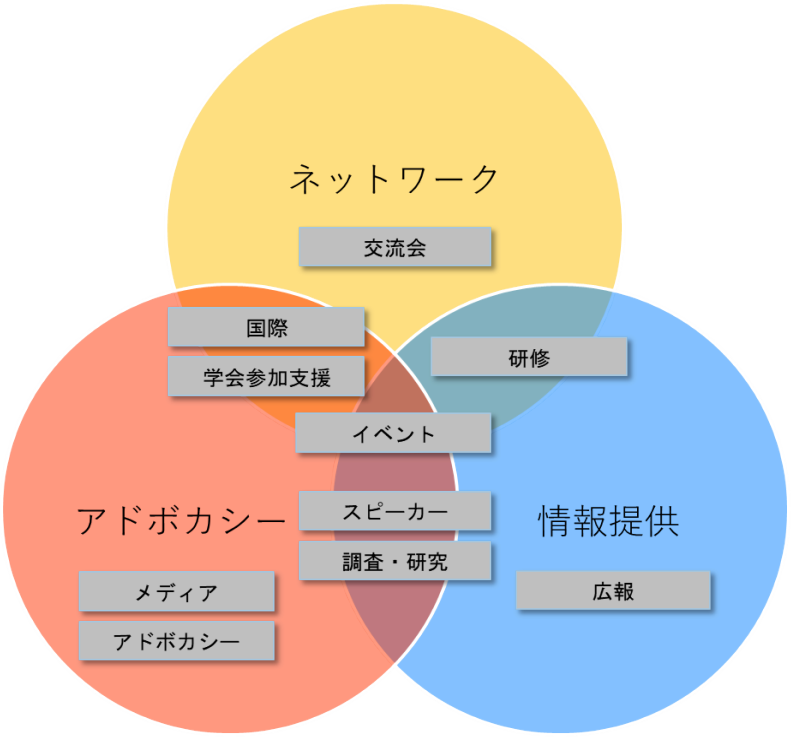
JaNP+のミッション

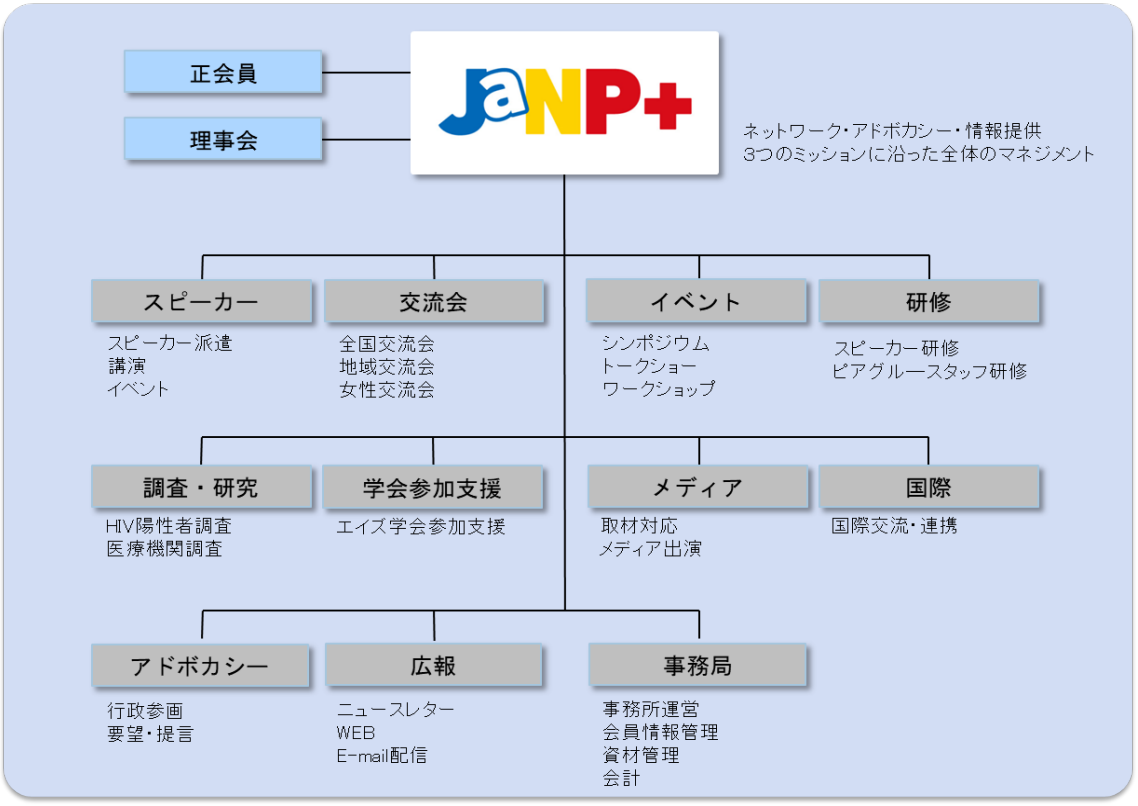
1. 情報提供活動
   医療、福祉、保健、政治などの幅広い分野から、HIV陽性者の生活に関する情報を、HIV陽性者独自の視点で選び、伝えています。

2. アドボカシー活動
   社会に根強く残るHIV/AIDSへの偏見や差別をなくし、HIV陽性者であることから生じるさまざまな不利益をなくすよう、社会に働きかけています。

3. ネットワーク事業
   国内外のHIV陽性者グループと、交流や情報交換を行います。多くのグループが連携、協力しあうことで、より大きな声へと変えていくことが可能となります。

３つのミッションと各プロジェクト





HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対する偏見へのおそれから、HIV陽性者が自身の感染の事実を周囲の人に伝えることはハードルが高く、慎重にならざるを得ません。当事者からすれば「言わなければ分からない」ので、伝えなければならない相手や状況も限られます。

しかし、HIV陽性者と実際に対面したり、話しを聞いたりする機会がなければ、多くの人々にとってHIV・エイズは「他人事」のままです。このままでは、HIV・エイズに対する恐怖や不安などの過剰なネガティブ・イメージは変わらず、偏見や差別の問題はいつまでも解消されないという悪循環が続くことになります。

実際、HIV陽性者の中には、自分のできる範囲で身近な人たちにHIV陽性であることを伝えている人も少なくありません。そして伝えられた人は、その時点で初めてHIVを「身近な問題」として認識し、自分が抱いていた従来のHIV・エイズやHIV陽性者に対するイメージが変わるきっかけを得ています。

こうした小さなカミングアウトを積み重ね、リアリティを広げていく取り組みが、HIV陽性者スピーカー派遣活動です。自身がHIV陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修会、少人数の集まり等を通じて、全国各地で等身大の語りを提供しています。

派遣実績

2018年度は、計38件の派遣依頼に応じ、計14名のHIV陽性者をスピーカーとして派遣しました。

＜聴講者の述べ人数＞

3,191名	（メディア除く）

＜依頼主の属性＞　（件）

NGO、NPO	13
医療機関	10
企業	4
教育機関	6
行政	4
メディア・その他	1

＜聴講者の属性＞　（件／重複あり）

医療職	18
保健所職員	9
心理職	6
行政職員	10
NGO、NPO	11
学生	14
教員	10
HIV陽性者	5
一般市民、その他	16

＜都道府県＞　（件）

富山	1
山梨	1
群馬	2
埼玉	1
千葉	2
東京	15
神奈川	4
三重	1
京都	1
大阪	4
兵庫	1
岡山	1
広島	1
徳島	1
沖縄	1
全国（メディア等）	1

＜派遣実績詳細＞

日付	依頼主体	催事名
5月21日	日本医事新報社	日本医事新報
6月8日	認定特定非営利活動法人シェア ＝国際保健協力市民の会（SHARE）	JICA青年海外協力隊　エイズ対策集合研修
6月11日	沖縄大学	ユニバーサル社会入門
6月15日	神奈川県立保健福祉大学	授業「医療福祉論」
6月22日	公益財団法人エイズ予防財団	平成30年度HIV/エイズ基礎研修会
6月26日	千葉科学大学	易感染状態にある患者の看護 －HIV感染者の生活－（当事者参加型授業）
7月1日	患医ねっと	ペイシェントボイスカフェ
7月21日	認定NPO法人AIDSネットワーク横浜	第26期AIDSボランティア学校・電話相談員 養成講座
7月26日	広島大学病院	第36回看護師のためのエイズ診療従事者研修
8月3日	第25回AIDS文化フォーラムin横浜 運営委員	第25回AIDS文化フォーラムin横浜 オープニング
8月4日	NPO法人中野区聴覚障害者 情報活動センター	コミュニケーション教室
8月31日	兵庫県	冊子「ひょうご人権ジャーナル きずな」執筆
9月5日	NPO法人ピルコン	フリーペーパー「PLACE vol.4」 インタビュー取材
9月10日	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	HIV/AIDS看護師研修会（初心者コース）
9月12日	国立保健医療科学院	平成30年度エイズ対策研修
9月14日	神奈川県エイズ治療拠点病院等連絡協議会 鳥居薬品株式会社	第11回神奈川HIVフォーラム
9月17日	認定特定非営利活動法人シェア ＝国際保健協力市民の会（SHARE）	JICA青年海外協力隊　エイズ対策集合研修
9月20日	都立六本木高校	市民講座「いのちと性」
9月29日	AIDS文化フォーラムin京都 運営委員会	AIDS文化フォーラムin京都
10月5日	一般社団法人部落解放・人権研究所	第31回人権啓発東京講座
10月12日	塩野義製薬株式会社	社内勉強会
10月14日	特定非営利活動法人akta	HIV陽性者の生活のリアリティを学ぶ学習会
10月20日	新潟大学医歯学総合病院 新潟県福祉保健部	北関東・甲信越地区エイズ治療拠点病院 ソーシャルワーカー会議
10月23日	太田市立太田高等学校	保健講和
11月9日	富山県	エイズカウンセリング研修
11月11日	smART応需	抗HIV薬のスマートな応需のための連携学習会
11月12日	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	HIV/AIDS看護師研修会（初心者コース）
12月3日	山梨県	平成30年度エイズ知識普及啓発講習会
12月3日	ヴィーブヘルスケア株式会社	第32回日本エイズ学会シンポジウム

12月7日	ヴィーブヘルスケア株式会社	世界エイズデー社内イベント
12月9日	岡山県臨床心理士会	岡山県臨床心理士会　医療保健部会 第3回研修会
12月12日	杏林大学	看護学科講義「公衆衛生看護活動論Ⅰ」
12月12日	ギリアド・サイエンシズ株式会社	社内営業向けトレーニング
1月17日	NPO法人グリーンバード	UPDATE講座 当事者から見たHIV/AIDSの“いま”
1月27日	徳島県歯科医師会	平成30年度HIV医療講習会 HIV感染症と歯科医療
1月27日	サヴァト会	サヴァト会　映画Day vol 6
2月9日	厚生労働科学研究費補助金 （エイズ対策政策研究事業）猪狩班	意見交換会「HIV陽性者の在宅療養を地域で支えていくために　～看て、聴いて、伝えて～」
3月18日	三重県立総合医療センター	HIV実地研修プログラム

POSITIVE TALK 2018

第32回日本エイズ学会では、HIV陽性者によるスピーチプログラム「POSITIVE TALK」が企画され、JaNP+では演者の募集や選考、当日の進行等の運営に協力しました。このプログラムには5名の応募があり、4名が学会場でHIV陽性者としての経験やメッセージを語りました。

HIV陽性者交流会

HIV陽性であることをオープンにしづらい日常生活において、他の陽性者と知り合う機会をなかなかありません。特に東京以外の地域では、その傾向は強くなります。
このためJaNP+では、交流会の自主開催や地域の当事者グループへの支援を通じて、一定の安全性が確保されたHIV陽性者の交流機会を提供することで、当事者どうしのネットワークづくりに取り組んでいます。

開催実績

2018年度は、下記のとおり交流会を開催しました。なお、JaNP+女子会については東京都エイズ啓発拠点事業として実施しました。

＜JaNP+主催の交流会＞

- HIV陽性者交流会　　HIV陽性者限定の交流会
- ジャンプ！交流会　　HIV陽性者とJaNP+会員・ゲスト等による交流会
- JaNP+女子会　　HIV陽性の女性限定の交流会

＜開催実績詳細＞

日付	催事名	開催地	参加者数
6月17日	ジャンプ！交流会	東京	14
7月14日	HIV陽性者交流会 in 広島	広島	11
8月18日	ジャンプ！交流会	東京	6
9月1日	HIV陽性者交流会 in 松山	松山	5
10月13日	HIV陽性者交流会 in 仙台	宮城	5
10月20日	JaNP+女子会	東京	7
10月20日	HIV陽性者交流会 in 広島	広島	8
11月10日	ジャンプ！交流会	東京	16
1月19日	ジャンプ！交流会	東京	12
2月16日	HIV陽性者交流会 in 仙台	宮城	6
2月23日	HIV陽性者交流会 in 広島	広島	9
3月30日	ジャンプ！交流会	東京	14
のべ参加者数			113

※参加者数はスタッフを含む

調査・研究

当事者の立場で様々な活動を行うためには、その裏付けとなるHIV陽性者の現状やニーズを論理的・客観的に把握する必要があります。JaNP+では、ミッションに照らして重要な調査や研究について、積極的に参加・協力しています。

HIV Futures Japanプロジェクトへの参加協力

HIV Futures Japanプロジェクトは、HIV陽性者の「自分らしくより健康的な生活の実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目的とした当事者参加型です。

HIV陽性者を対象としたWEBアンケート
URL　http://survey.futures-japan.jp/

HIV陽性者のためのポータルサイト運営
URL　http://futures-japan.jp/

このプロジェクトには、全国各地からHIV陽性者が参加する「レファレンスグループ」が設置されており、調査の実施やサイト運営について当事者の意見を積極的に取り入れています。JaNP+は、これまでの活動によって培ったネットワークをもとに、レファレンスグループの運営に協力しています。また、代表理事の高久はプロジェクト全体の意思決定を担うステアリンググループのメンバーとして参加しています。
2018年度は、第3回目となるWEBアンケート調査の実施に向けて、全国から集まったHIV陽性者15名によるレファレンスグループ会議で意見交換を行いました。

＜活動実績＞

日付	内容
10月4日	ステアリンググループ会議
11月19日	レファレンスグループ会議
1月28日	研究者グループ会議

その他の研究協力

2018年度は下記研究において研究協力者としてJaNP+の高久が参加しました。

- エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」（研究代表者：金子典代）
- エイズ対策政策研究事業「エイズ予防指針に基づく対策の推進のための研究」（研究代表者：松下修三）
- エイズ対策政策研究事業「HIV検査受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」（研究代表者：今村顕史）

アドボカシー

JaNP+は、HIV陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV陽性者のエイズ対策へのより広範な関与（GIPA：Greater Involvement of PLWHA）を活動の柱としています。広い意味では、JaNP+の活動は全てアドボカシーにつながっていますが、ここでは特に政府および行政への働きかけや協働についてご報告します。

差別事例の情報収集

HIV陽性であることを理由とする差別事例や、HIV陽性者に対する不当な扱いやについて、2018年度は6件の情報提供がありました。お知らせいただいた当事者には、必要に応じ情報提供や支援者の紹介等のサポートを行っています。

こうしたケースにおいて当事者の多くは「これ以上、関わりたくない」という精神状態に陥ることが多く、NGOでの把握や報道・裁判等によって顕在化するケースは、あくまで氷山の一角であると考えられます。

＜報告事例＞

報告時期	概要
6月	退職勧奨、差別的言動
9月	診療拒否
10月	雇用契約の不当な変更
11月	歯科における診療拒否
11月	歯科における診療拒否（ウイルス量検出限界以下）
1月	HIV陽性者の配偶者（妻）が産科で診療拒否

その他のアドボカシー活動

＜活動実績＞

日付	媒体名
8月23日	東京都エイズ啓発ポスター審査員として選考会議に出席
2月20日	東京都エイズ専門家会議に委員として出席
12月～	第33回日本エイズ学会学術集会・プログラム委員に就任
その他	製薬企業との面会

イベント

JaNP+では、HIV/AIDSに関連するテーマのイベントを企画・開催しています。

Cross Border Cafe

Cross Border Caféは、対立する2つの概念を毎回テーマとして設定し、テーマに応じて様々なゲストをお招きして、トーク＆パフォーマンス、そして参加者どうしの交流を通じて、テーマについて考えをめぐらせる時間を提供しています。
2018年度は、「障害／健康」と「性／恥」をテーマに2回開催しました。いずれも、HIV陽性者の多くが自身の感染を知った後に必ず向き合うことになる壁です。その背景にある思い込みを解きほぐす内容になるよう企画しました。
なお、このイベントはオラクル有志の会ボランティア基金の助成を受けて実施しました。

＜Cross Border Cafe vol.05 概要＞

日時	2018年12月16日（日）14:00～17:00
会場	EAGLE TOKYO BLUE（東京都新宿区）
ゲスト	田亀源五郎、ブルボンヌ、肉襦袢ゲブ美、JUZU マダム ボンジュール・ジャンジ、Junya、長谷川博史
入場料	1,000円
来場者数	45名

※敬称略

＜Cross Border Cafe vol.06 概要＞

日時	2019年3月10日（日）14:30～18:00
会場	EAGLE TOKYO BLUE（東京都新宿区）
ゲスト	杉山文野、かんばらけんた、ブルボンヌ、JUZU マダム ボンジュール・ジャンジ、Junya、長谷川博史
入場料	1,000円
来場者数	27名

※敬称略

広報

ニュースレターの発行

　ニュースレター第36号～第39号を制作、発行しました。
　ニュースレターは5000部を発行し、全国のエイズ治療拠点やNGO、各種会員等に広く配布しています。また、WEBサイト上でも読むことができます。
　2018年度は、ヴィーブヘルスケア株式会社による企業広告掲載のほか、前年度に続き公益財団法人エイズ予防財団の助成を受けて、ニュースレターを制作・発行することができました。

ＷＥＢサイト・ＳＮＳの運営

　おもにJaNP+の活動案内や交流会などの告知を掲載するオフィシャルサイトを運営しています。また、TwitterおよびFacebookでも、活動に関する広報や情報提供等を行っています。

寄付・助成

2018年度も、様々な企業・団体・個人の皆様より寄付および助成をいただきました。おかげさまで、ご報告させていただきました通り様々な活動を実施することができました。あらためまして、ご支援をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

＜年間活動への寄付＞

- ヴィーブヘルスケア株式会社
- 鳥居薬品株式会社
- ファイザー株式会社
- MSD株式会社
- 中外製薬株式会社

※個人の方からのご寄付については、プライバシー保護のためお名前の掲載を控えさせていただきます。

＜特定事業への助成＞

助成元	対象プログラム
エイズ予防財団助成事業	エイズ患者・HIV感染者向け情報誌発行事業
オラクル有志の会 ボランティア基金	Cross Border Cafe
ヤンセンファーマ 株式会社	HIV陽性者交流会（仙台・広島・松山）